



周防大島町
国民健康保険医療費の推移

山口県の国保税額は、ほぼ全国平均ですから全国でも低いレベルですが、町としては引き続き抑制する努力を続けてまいります。17年度は約5万円ですから、前年度よりも低くなっています。

医療費の支払いは高い方から五番目

— 国保税は低くて医療費を多く使うということですね。
町長— そういうことになりました。平成16年度の医療費支払のデータでは山口県の一人あ

たりの平均医療費は、老人医療を含めると約46万円ですが、本町は約52万円です。これは山口県では五番目の高さになります。要因のひとつには周防大島町の著しい高齢化の人口構造があります。

70歳を超えると20代の6倍

— どうやって、医療費を抑制していくのですか。
町長— 70歳を超えると20歳代の約6倍の医療費が必要とのデータもあります。レセプトのチェックをはじめ、同じ症状であちこちの病院に行ったり、たくさんのお薬をもらったりしないようにお願いもしています。かかりつけのお医者さんをもち、その指示に従うことが大事だと思います。

生活習慣病の予防に全力を

町長— いわゆる生活習慣病の予防に全力を尽くす以外に手立てはないように思います。高齢者の介護予防や健康指導、疾病の早期発見等に積極的に取り組める体制とするため、新年度から高齢者の総合

的支援を行う地域包括支援センターを設置しました。現在、各種の検診事業や保健師を中心として各地区で開いている「住民サロン」では、地域の人に集まっていただき、血圧等のチェックをはじめ、各種の健康相談や、介護予防の筋力トレーニングなど、健康づくりの事業を実施しています。竜崎温泉にも歩行浴のプールを建設しましたから、それらの施設を十分に利用して健康づくりを進めていきたいと思っています。

国保税の滞納は不公平

— 国保税の滞納額は、かなりの金額になります。具体的な対応策は考えていますか。
町長— 過去5年間の国保税の滞納金額は、約8千万円にもなります。この金額ははきちんと納めている方々が、滞納者の分を負担することになるわけです。これは不公平です。それを防ぐために、判定委員会を開いて、特別の事情等を考慮した後、有効期間の短い保険証や、いったん全額を自分で払わなければならぬ資格証というものを現在、157世帯の242人の方に

人口21700人のうち13354人が加入

周防大島町では全体の62%の方が国保に加入しています。国保というのは、日本が世界に誇れる医療制度です。諸外国には日本の国保のような充実した医療保険制度はありません。極端な話ですが、外国で盲腸の手術をしたら200万円以上かかるという話もあります。医療というのは命にかかわる問題ですから、誰でもいつでも、安心して医療を受けられるというのが、大前提となります。国保は優れた医療制度ですから、なんとしても守らなければならぬと思っています。